

会 議 録

会 議 名	平成30年度第3回小金井市史編さん委員会		
事 務 局	生涯学習課 文化財係		
開 催 日 時	平成31年2月4日(月) 午後2時から3時		
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎801会議室		
出 席 委 員	根岸委員長 牛米委員 大熊委員 中嶋委員 日高委員 林委員		
欠 席 委 員	井上委員		
事 務 局 員	関生涯学習課長 山崎文化財係長 高木主事(学芸員) 鈴木(市史編さん担当) 非常勤嘱託職員		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	2名
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 「通史編」及び「資料編」の報告について</p> <p>(2) 市民協力員の活動について</p> <p>(3) その他事業について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 「市史編纂資料第58編 梶野家文書(3)」の編集</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 古文書調書委託について</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 多摩郷土誌フェアについて</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 今後の事業計画について</p> <p>(2) その他</p> <p>3 次回の会議日程</p> <p style="padding-left: 20px;">平成31年5月13日(月) 午後2時～</p> <p style="padding-left: 20px;">於：市役所第二庁舎8階801会議室</p> <p>5 配付資料</p> <p>(1) 小金井市史編さん活動 市民協力員調査項目一覧(資料)</p> <p>(2) 第31回多摩郷土誌フェアについて</p> <p>(3) 平成31年度委員会開催予定</p> <p>(4) 月刊こうみんかん2月号</p>		

会 議 結 果

関生涯学習課長 本日、井上先生はご欠席と伺ってございます。皆様お揃いですので、始めさせていただきたいと思っております。お忙しいところ、皆様お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから平成30年度第3回市史編さん委員会を開催いたします。

今年度の市史編さん委員会は、本日が最後となります。平成20年度から続けておりました市史編さん事業としまして、通史編及び中世・考古の資料編の今年度刊行を予定しております、これが一定、一つの大きな節目となります。

後ほど、その資料編、通史編につきまして、事務局から報告させていただきますが、今後の文化財行政の進むべき方向等で、私どもの考え等を述べさせていただきますので、皆様から忌憚のないご意見をいただけたらと思っております。本日はよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、議題に先立ちまして、本日の配付物等の確認をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

山崎文化財係長 本日の資料等をお手元に配付してございます。まず、会議資料といたしまして、小金井市史編さん活動市民協力員調査項目一覧が2枚と第31回多摩郷土史フェアについての報告1枚、そして、皆様の任期の記載されております委員名簿に来年度開催予定の会議日程を記載したものの1枚です。配付物は月刊こうみんかんになります。以上です。

関生涯学習課長 配付もれはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、この後の委員会の議事進行につきましては、根岸委員長にお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願ひいたします。

根岸委員長 お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。本年度最後となります。この3月に市史の通史編及び資料編（中世・考古）を刊行いたしまして、この事業に一応の区切りをつけることになりました。前回お話がありましたように、編さん事業そのものは続けていくという中で、ここで終わりにするのではなく、前向きな方向性を考えていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

1 報告事項

(1) 「通史編」及び「資料編」の報告について

根岸委員長 それでは、議題に入ります。まず1の報告、(1)「通史編」及び「資料編」について。これは事務局のほうからお願いいたします。

関生涯学習課長 それでは報告させていただきます。通史編の原稿につきましては、事前に委員の皆様にご確認をしていただきました。さまざまなご意見、ご指摘を頂戴し、編さん作業に入らせていただきました。ご多忙の中、ありがとうございました。

編集状況の詳細につきましては、高木から報告させていただきます。

高木主事(学芸員) 小金井市史の編集状況についてご報告いたします。執筆者にお願い

した原稿につきましては、通史編は全て、資料編はおおむね入稿がすすんでおります。現在はこれらの原稿の校正作業を進めているところです。今後は、刊行に向けて印刷業者と調整を進めていきます。

その中、特に考古部会につきましては、この1年の間で通史編と資料編の2つの原稿を、非常に厳しいスケジュールの中で仕上げさせていただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

今後は、主に事務局において印刷に向けての調整を進めていく形になっていきます。2回目、最終の3回目の校正をとという形で、校了に向けて今、進めております。

通史編及び資料編についての状況は以上となります。

根岸委員長

今ご説明いただきましたが、何かご意見、ご質問はございますか。

もし、編集委員の中で何かあればお願いしたいと思います。ただ、編纂委員会終了後、編集委員会を開きまして、一度編集上の問題点などについてはそこでも話したいと思っておりますので、ほかの件で何かあればお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

大熊委員

お忙しい折のご執筆ありがとうございました。現在の小金井の様子を見極めるためにも大変有益かつ貴重な歴史資料を市民の方に提供できることを大変喜ばしく思っております。また、編集に一定の見通しがたったようですが、引続き刊行までご尽力くださいますようお願いいたします。

この先の市史編さん業務の予定という話ですが、やはりこれをしっかり読み込んだ後に、教育委員会として、指導室のほうで取り組むべき課題も少し見えてきたように私なりに思っております。

祖先の脈々とした歴史を踏まえて、どのベクトルで今の小金井があり、どちらに進んでいこうとしているのかが分かります。小金井は小金井らしく、昔からも今も生きているまちだということが分かると、小金井らしい教育もあるのではと、そんな気持ちにさせていただきました。ほんとうにありがとうございました。

根岸委員長

ありがとうございます。そういう方向性を、市民の方たちにも知らせていけるような形にできればと思っております。特に近代・現代については、非常に大変な作業と執筆のご苦勞があったかと思っておりますので、そのようなご感想をいただくと非常にありがたいと思います。

大熊委員

具体的なお話をしますと、小金井市には、これだけ多くの遺跡が出土されていることから、考古の時代からここに人々が生活を営んできた歴史が確認できます。また、実際に四小で発掘された遺跡一つを取り上げても、それを大切に後世に伝えていこうとする住民の方達の存在があることに気づかされます。そういう文化が小金井市にはあります。その部分も含めて子ども達に伝えていきたいと思っております。

根岸委員長

ありがとうございます。

今後のことを考えていく上でも重要なご発言をいただきましたが、編集委員の先生方で何かございますか。林先生。

林委員

特に今発言はありませんが、全貌を読み通してみても、大変勉強にな

りました。私たちが今まで頭の中で描いてきた市史とは全く違う、そういう歴史的な経緯がはっきりとよくわかって、勉強になりました。委員になる前に読んでおくべきだったと思います。

根岸委員長

ありがとうございます。

編集委員の先生方、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、1につきましてはよろしいですね。

(2) 市民協力員の活動について

根岸委員長

では次に(2)市民協力員の活動について、高木さん、お願いします。

高木主事(学芸員)

私から(2)の市民協力員の活動についてご報告いたします。

今年度は畑野さんと閑野さんのお二人が活動をされています。報告内容は別紙資料の5番、市史編さん活動市民協力員調査項目一覧をごらんください。

1 ページ目に、畑野さんの協力をまとめたものが上段、下段に閑野さんが報告したものをまとめたものを並べております。さらに2 ページ中段以降は、主に畑野さんがこれまで長年行ってきた実績を項目ごとに分けておりますが、ここでお話しするのは今年1年間の調査報告のみです。

まず畑野さんについては、主に近代の人物を中心に、また小金井の産業や主な出来事について調査していただきました。それが表にある一番上の日本特殊織物株式会社から、最後は日本紳士録という形で、さまざまな目線で調査いただきました。全てをお話しすると時間がなくなってしまいますが、著名な方、または地元の有力者、または戦争にかかわる、例えば中島飛行機の関連の施設等、そのほか、宗教家、小金井の地元の名士星野家の話、例えば富永謙治さんは、実は青梅鉄道の社長さんで、非常に著名な方なのですが、どちらかという小金井の中では、大岡昇平が下宿していた屋敷の主としてのほうが知られています。大岡昇平というのは『武蔵野夫人』を執筆された方ですが、その方が住んでいた場所が、この富永家だったということで、そういうつながりがあって調査されています。

他に著名なところだと、真ん中に星野宇右衛門家と川村家というものがありますが、この星野というのは、小金井の始まりの1つの家としての星野家本家に当たるわけですが、そこで、実は幕末の洋画家で有名な川村清雄という方と姻戚関係にあったということが少しずつ見えてきたという話があり、これはまだ調査中ですが、途中段階のものも含めて、こういう形で報告しております。

特に近代については、一つの調査の視点としては、まず資産家や実業家、有力者というところの目線で行っています。この中で何人かは、小金井で一番古い段階で電話を設置している家柄でもありますので、そういうところは一つ根拠となっています。

電話を設置するということは、有力者であるということのあかしになるわけです。ということで、1年間だけでもこれだけの数の調査をさ

れております。

続いて閑野さんの協力をいただいております。この1年で新たにお願いしている方です。畑野さんとはまた別の視点、または別の分野でご協力いただいております。ごらんとおり、表には石造物と表記しておりますが、小金井市内の中世や近世を主な時代を対象にいたしまして、いわゆる石仏または石碑などの石造物の分布調査を行っていただきました。

その結果がこのような形で、神社の場所、お寺の場所、墓地の場所でしたり、道の脇に置かれている路傍の石なども対象にしています。

実際に直接現地に行って確認していただいておりますので、実はこれまで調査の中で発見されていなかった新たな資料も、この機会に発見されまして、やはりこういうところは地域に精通した方を協力員にしたという、非常に大きな功績であったと思います。

ただ今回、小金井市史の通史編また資料編には間に合わなかったもので、これは今後の市史編さん事業の中で形にしていくことが必要かと感じております。

2ページ以降は、これまでの報告です。非常に大量のデータが、これは一つの市史編さんの財産として、今後活用させていただくという流れかと思っています。以上です。

根岸委員長 ありがとうございます。

この件について、ご意見、ご質問ございますか。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。今後もこのような地道な調査は、継続していただくと有益かと思っております。

(3) その他事業について

ア 「市史編纂資料第58編 梶野家文書(3)」の編集

イ 古文書調査委託について

ウ 多摩郷土誌フェアについて

根岸委員長 それでは続きまして(3)その他事業について、ア、イ、一緒をお願いします。

高木主事(学芸員) こちらも私から報告いたします。まずアの「市史編纂資料 第58編 梶野家文書(3)」でございます。この市史編纂資料集は、毎年1冊刊行しているものの第58冊目です。これは、梶野家文書という非常に大量にある古文書群から1巻ずつ出しているものでして、今回が第3巻目ということになります。現在、印刷業者に発注して、事務局内にて編集・校正作業をしているところで、3月には製本する予定となっております。

まずこれが1点目です。

続いてイの古文書調査委託の報告です。やはりこちらも、引き続き大量にある梶野家文書の古文書群の調査を、専門家である根岸先生にお願いしております。市史編さんの通史編の編集集中で、非常に忙しい時期かとは思いますが、よろしく願いいたします。

どちらも年度内の事業となっております。簡単ではありますが、以上となります。

根岸委員長

3については、近世資料の翻刻をしまして、それを活字化し、本にしていくという、その翻刻の作業を、私の大学でその知識を有する者にやってもらいまして、それを私が点検して提出するような形でやっているところでございます。

この件につきまして、何かございますか。よろしいでしょうか。

山崎文化財係長

報告がもう1件ございます。お手元にお配りしております郷土誌フェアについて、簡単にご説明させていただきます。第31回多摩郷土誌フェアが、1月19・20日の2日間、立川市の女性総合センター「アイム」1階のセンターギャラリーで開催されました。毎年、こちらについては小金井市も参加しておりますので、ご報告させていただきます。

こちらは、東京都市社会教育課長会文化財部会の主催で、毎年実施しております。多摩地区の教育委員会等が発行している郷土誌関係の出版物を一堂に集めて、それを展示することにより、多くの人々に紹介し、希望者には有料頒布するということで普及を図ることを目的としております。

今年度は、来場者数が、19日が429名、20日が219名、合計643名でした。参加自治体は25市町、24市と1町の参加で行いました。

販売書籍は、本市のものだけですが、77冊、2万8,300円という結果となりました。去年は35冊1万7,600円でしたので、昨年よりは多い結果となりました。以上です。

根岸委員長

ありがとうございます。

この件につきまして、ご意見、ご質問などいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ほかに、その他についてございますか。事務局のほう、よろしいですか。

関生涯学習課長

それでは、一昨日、記念講演会を開催しましたので、皆さんに報告させていただきたいと思います。

一昨日、2月2日の土曜日に、明治東京150年市制施行60周年事業としまして、「古絵図でたどる小金井の幕末明治」と銘打ちました記念講演会を開催いたしました。

地域に残る明治期の貴重な大判村絵図である小金井村絵図1部、貫井村絵図2部を、今年度修復作業をいたしまして、その完成したもののレプリカを用いまして、村絵図から読み取れる当時の小金井村民の姿についての講演会を実施したものです。

講師としましては、幕末明治期につきましては市史編纂委員の太田和子先生、そして明治期につきましては同じく牛米先生にご講演いただきました。

宮地楽器小ホールで開催いたしましたが、当日は約130名の来

場者がございました。大変多くの方に来ていただきました。牛米先生、太田先生のおかげをもちまして、大変盛況のうちに講演会を実施できたことを、この場にて皆様にご報告いたします。先生、ありがとうございました。

根岸委員長 牛米先生ありがとうございました。何か先生のほうからございますか。

牛米委員 レプリカですが実物大の展示物の周りに、たくさんの皆さんが集まって、文化財センターの学芸員多田さんの解説に耳を傾け、質問も盛んにされていらっしゃるようで、大変よかったのではないかと思います。

根岸委員長 どうもありがとうございました。

何かこの件についてございますか。いかがでしょうか。

来年度も、講演会を行う予定ですが、その際にもそういうものが展示されると、またいいかもしれないですね。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

2 議題

(1) 今後の事業計画について

根岸委員長 では続きまして、2の議題に入ります。(1)今後の事業計画についてということですが、関さん、お願いいたします。

関生涯学習課長 それでは、今後の事業計画ということでお話しさせていただきたいと思えます。

前回の第2回の会議におきまして、今後の市史編さん事業についてお話しさせていただいたところがございますが、今日、改めてになってしまいますが、今後の市史編さん事業の展望についての考えをお話しさせていただきたいと思えます。

事務局としましては、来年度以降も市史編さん事業を継続していくものであると考えてございます。そのためには、まずは事業の総括と、今後の指針をこれからまとめていく必要があると考えているところでございます。

平成20年度から本格的に始まりました市史編さん事業は、10年の歳月を経て通史編を刊行する運びとなりまして、今年度が一つの大きな区切りとなるものです。

10年という、これまでの編さん事業の経過の中で、埋もれた資料の収集を進め、そこから多くのことを学び、さらには地域の魅力の再発見にもつながりました。そのため、本事業を振り返ることも大切なことであるといえます。本事業の総括をまとめていくことが、私たち市史編さんに携わった者の役割と認識しています。こうした総括があり、その上で、今後の指針を定めていくことと考えます。

今後、小金井市史という基礎資料をもとに、さまざまな事業展開が想定されるものです。例えばですが、収集してきた資料の保存を徹底することや、歴史資料の電子化を進めること、歴史資料の活用等が

ございます。

特に資料の活用では、縄文時代や室町時代の遺跡を発信するブックレット、子供向けの小金井の歴史の印刷物の発行、体験学習の提供、デジタルアーカイブ化の推進など、市史編さんから発生、拡大する事業は今後の生涯学習事業の柱となり得るものがございます。

先ほど、この部分につきましては、冒頭、教育長からもいろいろとお話をさせていただいたところでございます。今後につきましては、十年という大きな節目を迎えた今年度を踏まえて、総括を進めつつ、委員の皆様からのご提案を賜りながら、事業計画を立てていきたいと。今後、小金井市の文化財行政を、よりいろいろな工夫を凝らして発信していきたいと思っているところでございます。以上です。

根岸委員長

ありがとうございます。

今後の事業計画ということで、まず第一に、ここで編さん事業は一段落しますが、その総括をするべきではないかとの話を事務局といたしました。

先ほど大熊教育長からお話がありましたが、小金井市史を読んで、市の現在の立ち位置を、前を振り返りながら考えて、そこから新しい問題を考えることが必要だというお話、まさにそのとおりでして、この事業も同じようにしなければいけないと考えています。

今まで10年以上、ここで編さん委員会を開き、またそれぞれの編集委員のもとでさまざまな活動が行われ、成果として資料編、さらに通史編がつくられてきました。それでは、どのようにつくってきたかをきちんと記録しておくこと。もう1つは、その成果及び課題や反省をきちんとまとめておく。その上で新しい方向性を決めていきたいと考えております。

その中で、今後の事業計画を初めとして、今の事業の総括を行いたい。それが、今の課長がご提案されたものでありますが、このことにつきまして、ご意見あるいはご質問、あるいは提案などがありましたら、ぜひお願いいたします。

突然なので、なかなか出てくるのは難しいかもしれませんが、いかがでしょうか。

林 委 員

先ほどの関課長からのお話と、今の委員長の集約と、そのとおりだと思えます。私は長く携わってきまして、委員会としては編集の方針や計画を示すということになるわけですが、実際に中身の編集に携わった方々の、現場の方々の苦労というのは大変なものがあったと思います。改めてそういう方たちに敬意を表しておきたいと思うわけですが、この新しい計画を考えるに当たっては、例えば畑野さんや閑野さん、その他の協力員の方々とか、そういう縁の下で支えてくださった方々の意見等を十分にお聞きいただいて、参酌していただいて、それでまとめていくようなことをぜひ考えていただきたいと思えます。

根岸委員長

ほかの委員の方々、いかがでしょうか。お願いします。

日高委員

まず総括をするということで、反省点なども含めてですね、それを

どのように集約して、小金井市の教育委員会に上げていくか。今後の方針、指針は、それができ上がってきからになるかと思っています。それぞれの部会の総括は、どのようにやったらいいでしょうか。具体的には、要するに3月末までにそういう部会を一度開いて、全員の調査員の方の意見を集約するという、そういう形でやっていくべきなのか。多分そうしなければいけないだろうと思うのですが、どうでしょうか。

関生涯学習課長

まさに日高先生がおっしゃったとおりで、総括の仕方は多分いろいろな方法があるかと思っています。林委員からお話がありましたとおり、これだけ多くの方に携わっていただいた事業ですので、やはり振り返りというのは様々あるかと思っています。本日、私としては総括ということでの提案をお示しさせていただきました。方法につきましては、日高先生がおっしゃったことがベースになるかと思いますが、各部会長ごとに、またご意見をいただきたいと思っていますところがございます。

根岸委員長

私としてはやはりまとめて、一応報告書に、きちんと活字にして公表するような形にするべきかと。そんなに厚いものではないので、何とかなるのではないかとは思いますが、そういう形で、単にまとめただけで、どこに行ったかわからないでは困るわけで、やはり今後、それに携わる人たちが、それを見ることによって、またそれを考える基礎にしていく資料にしなければいけないと思っております。私もいろいろな自治体史にかかわってきましたが、本ができてしまったら、それで祝賀会を開いて終わりになって、いろいろな問題点があったり、あるいはもっと書きたいのに、紙幅がないとか、時間がないというのがあるのですが、そういう中で、書ききれなかった部分や課題、問題点などがあります。実は市史というのは書きにくいもので、あの文書の中に今後の課題や問題点などはなかなか書けないわけです。そういうものをまとめておいて、次に手渡していくような作業というのと、そういう課題を集めることによって次が出てくるというような。

それはやはり、公表しなければ意味がないように思っておりますので、そこら辺は何とか印刷費を、そんな大したものではないと思いますが、確保していただければと考えているのですが、いかがでしょうか。

大熊委員

何とかしないとイケないと思います。委員の立場で言わせていただきます。私はこれを読ませていただいたときに、これだけの脈々とした歴史が明らかになったら、旧浴恩館の役割は、文化財の展示施設という役割とは違うのではないかと思いはじめました。あそこはやはり、青年の学びの場だったわけですね。あそこにある資料は、もっと市民の方にわかってもらわないとイケないのではないかと思います。

新庁舎ができるときに、狭い部屋でもいいから、小金井の歴史がわかってもらえるような場所を、新庁舎の中につくるべきではないかと思っています。それが常時変わって、市民が来るときに、これまでまとめ

ていただいた小金井らしさというか、もう少し読み込まないと、僕もその小金井らしさを一言で言えないのですが、その小金井らしさをもっと市民に分かってもらうには、旧浴恩館だけでは、不可能に近いのではと思われます。

本来の浴恩館の役割は、地域の若者や、いろいろ悩んでいる母親等が学ぶことのできる施設であったり、中学生が集まってきて野外活動ができるような場所、宿泊施設としてあるほうが、小金井らしいあり方ではないかということをととても感じました。

やはり今回まとめていただいたことは、もっとしっかりと広めるべきだと思います。そのためには、新庁舎、4年後ぐらいになるまだ先の話ですが、今から声を上げさせていただいて、小さな一室でもつくっていただけるといいかと、委員として感じた感想です。

根岸委員長
大熊委員

はい。ぜひ声をあげていただけたらと思います。

そういうことをきちんとわかってもらうということは、小金井の人にとっても重要なのではないかと思います。やはり新庁舎に、小金井の歴史を語る場所が欲しいと思います。あの大きな土器を真ん中に置いてという。夢を語っております。やるのはおまえだろうと言われてしまうかもしれないですが、皆さんにもご賛同いただければ、少しエネルギーをもらって、頑張りたいとは思っております。

根岸委員長

ぜひ、そういう方向性も何か総括に含めていければと思いますが、いかがでしょうか。

大熊委員
牛米委員

皆さん、どう思われますか。ご意見だけ伺いたいのです。

いいんじゃないですかね。やはり身近な場所で少しでも見ていただければ、それをきっかけに興味を持って市史の本編を読んでいただけたら、又は今の旧浴恩館、展示施設となっていますが、原始古代から展示してある施設があるのだったら、そちらにも行ってみようというきっかけが作れますよね、そのようなきっかけを作る窓口になるところがあってもいいと、私はそんなふうに思います。

大熊委員

部屋ではなくてもいいです。どこかの壁の一部に張ってあるだけでもいいと思います。小金井の歴史の年表が壁面にあってもいいじゃないですか。

根岸委員長

それはいいですね。市庁舎の待合室にずっと、年表がこうあって、そこにぽつんぽつんと絵があったり。

大熊委員

そうになったら、また皆さんにお力をお借りしないとできませんが、とにかく小金井の今は、急にできたのではなくて、長い歴史があるということは、是非市民にわかっていただかなければと思うのです。

根岸委員長

ありがとうございます。

大熊委員

あくまで委員としてですが。

根岸委員長

ありがとうございます。委員会としてそういう方向性を出したという、そういう話にしていければと思いますが、ほかにいかがでしょうか。お願いします。

日高委員 先ほど根岸先生のほうから、公表すべきであるということをおっしゃっていただきましたが、私自身もそういうふうにするべきなのではないかと思っています。

印刷物にするということになると予算が必要になることなので、総括を行ってということをお考えすると来年度、そういう形で何とか形にさせていただければと思っているのですが、やはり、ちょっとこれから、それぞれ部会ごとに総括するという部分も当然必要だと思いますし、全体的なところというのにも必要かと思うのですが、今後どういう形で進めて、そういうことをしていくかというあたりを、また方針を決めていただくとお思いますので、よろしくお願ひしたいとお思います。

根岸委員長 この後の編集委員会で話し合いたいと思っているのですが、そういう方向でいかがでしょうか。

中嶋先生、何かありますか。

中嶋委員 そうですね、あまり考えつかないところもあるのですが、要するに、全体の総括以前に部会で総括をするという日高先生のお話だと思うのですが、そうするとどういうことをやるのかですが、編集体制の問題とか著述の問題とか、あとは今後の方針とか、まあ3つぐらいあるだろうとお思います。それをまず部会で総括をして、それから全体でまたこういう編集委員会なり編さん委員会なりでやるという形になるだろうと思って、いずれにしても、報告書は来年度ということになりますよね。

根岸委員長 報告書は来年度になるとお思います。

中嶋委員 そうすると、それをやるためにある程度まで、会合なりメールで意見交換なりをするようにおと思いますが、その内容については、編集会議で検討するかとお思います。

個人の意見としてというよりも、きちんと部会ごとにまとめてやったほうがいいたらうとお思います。

根岸委員長 牛米先生、いかがですか。

牛米委員 それで結構だとお思います。具体的には、この後の編集委員会で話し合っていくとして、とりあえず、私も含めてですが、部会で関わってくださった、執筆してくださったとか、そういう人たちとも話し合せて、それをまとめる形で、近代のほうも出していきたいとお考えています。

根岸委員長 ある意味では、この編さん委員会は来年度というか、今年の8月までは続いていますので、そういうことも考慮に入れながら考えていければと思うのですが。

日高委員 8月までですね。

根岸委員長 8月までは皆さん、編さん委員です。

大熊委員 新庁舎に小金井の歴史がわかる何かをつくってみるというのは、どうでしょうか。

中嶋委員 重要だとお思いますけれども。

大熊委員 部屋じゃなくてもいいとお思います。廊下の壁面でもいいので。

根岸委員長
中嶋委員

そうですね。廊下の壁面に大きな年表を作るとか。

それも重要だと思いますが、私のほうで、思いついたことを1つだけお話ししますと、何か紀要のようなものがあってもいいかとは思っています。編さん資料がありますが、あれは大体資料集になっています。

事務局のほうとしては現代については、もっと後までの時代を対象にというご意見もあったところ、できませんでした。例えば、実質は現代史は1990年代ぐらいまでしか扱っていませんので、それ以降については、どのようなことがいえるかを考察するとか。

通史編を作成するときに、各部会もそうだと思いますが、様々な資料を集めてきていて、部分的にしか使わなかったことは幾らでもあると思います。そういう部分を含めてまとめてもいいのではと。そのような機会があってもいいかとは思っています。これは、部会長というよりも編さん委員としての私個人の意見でして、部会で通るかはわかりません。

根岸委員長

確かに、資料集をずっとつくり続けているのは小金井市だけなのですが、ほかの市町村などでは、市史が終わった後、「市史研究」というものを私の関係している自治体などはもう40年ぐらい続けて刊行しているところもあります。資料だけではなく、新しい研究成果など、もう少し市民にわかりやすい形で提供していくような、そんな工夫も必要かもしれないですね。

中嶋委員

補足しますと、畑野さんの資料というのは、現代編について多少参考にさせていただいたことがあります。あるのですが、公刊されていると使えるのですが、単純にそういう資料になっているだけなので、まとめて今後使える形にしていくと、有益かと思えます。

大熊委員

この編さん委員会で、私が最初にお話ししたことなのですが、一部のマニアックな人を対象にすることで終わらせたくないと思っています。市史は、本だと数人しか読む方がいなくても、必要な文章を検索して、即座に見られるように、ウェブ上に情報が提供されている形にできたら、もっと多くの方に活用していただけたらと思うのです。皆さんにご意見をいただいて、今後目指していきたい部分です。

今回、学習指導要領では、主体的・対話的・深い学びということを重要視するようになりましたので、市史を読んで、自分の気に入ったところをまとめなさいと言ってしまうと主体的な学びから離れてしまうものになるわけです。

そうすると、入口が必要となります。その入口は、中学生でも、みんなが読んで、小金井の歴史をちょっと調べてみたいというようなことを思えるようなパンフレットであるとか、簡単なリーフレットみたいなものがあって、それが中学生に配られたり小学生に配られたりして、夏休みの自由研究にウェブサイトに行ったらそれが調べられるという、入口のQ&A集のようなものがあってもいいのではと思っています。

あともう1つは、これも私がやるべき仕事だと思うのですが、小学校の3・4年生対象の小金井市の社会科副読本というのを作成しています。この市史を読んだ後ですと、小金井らしさが無いことに気づきます。昔農業をやっていた、千歯こきがありました、というのような形になっていて、小金井の市史を改めて読んでみると、そうではない歴史があることに気づきます。

可能でしたら本編に子どもたちが主体的に学べるような簡単なリーフレットを作成し、一般市民の人たちにも見ていただいたら、この市史を見るきっかけになると思います。

私にとって、この市史は、歴史が好きだったということもあるのかもしれないですが、読み進めて、わかってくるとおもしろい、のめり込んで時間を忘れて朝まで読んでしまう魔法の本のようでした。そのような機会、興味を持つ機会を子どもに与えられたらと思います。

皆様の頭の片隅に入れていただいて、実際に私もいろいろ計画を立てていきたいと思いますが、そのときにはまたよろしくお願ひしたいと思います。

根岸委員長 ありがとうございます。

さまざまな建設的な提案が出てきていると思いますが、ほかにいかがでしょうか。お願いします。

日高委員 今おっしゃったとおりです、やはりこれについては、今後これについての広報の進め方がとても重要であると思います。この市史、通史編と資料編が刊行されるわけですが、それを何とか市民の方に手にとっていただくような努力を今後進めていかなければいけない。そのためには、今お話も出ましたが、そういうパンフレットのようなものですね。それはやはりビジュアルに訴えるような形でないといけないと思いますので、そういうビジュアル版の市史のダイジェスト版というようなものというの、やはり必要なのではないかなと思います。そういうことになったら、もちろん協力は惜しみませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

根岸委員長 ありがとうございます。

積極的な意見ばかり出ていると思いますが。お願いします。

林委員 今までの皆さん方のご意見に、基本的に異存があるわけではないのですが、先ほど委員長がおっしゃった、成果がどういうものになっているのか、その成果の評価、あるいは一連の作業で、ここまで通史編と資料編の最後の締めが終わりそうになっていると。我々の仕事が終わるといふ段階になって、その成果や反省、あるいは総括をまずやってというお話がありました。

そういうものがまだできないうちから、各論の方法論みたいなものにどんどん話が進んでいくのですが、それはそれでいいのですが、もう少し、そこを踏まえて、今日はそういう点でどういう集約が必要なのかということの議論があるのかと思って出てきました。実際には、その先にどんどん話が進んで行くわけですが、何か、もっと

基本的にデータをそろえて、そのデータに従って、じゃあどのようにやっていきたいと思いますかというあり方に、そんなに拙速に行かなくてもいいのではという印象を持ちました。

ですから、先ほどちょっと申し上げましたが、縁の下の力持ちみたいないろいろ協力してくださった市民の方々がたくさんいらっしゃいますね。現実には文章を書いてくださった方もたくさんいらっしゃる。そういう人たちの意見もよく聞いてみて、今後どういうふうにしていったらいいのかというような意見があれば、それらも参酌した上で、議論をして決めても遅くはないのではという感じがしています。そういう手間をきちんと重ねていっていないうちに、どんどん各論が進んでいくことには、私は戸惑いを感じていたところです。申し訳ないのですが、ちょっとそう思いました。

根岸委員長

いえ、とんでもないです。確かにそのとおりでと思うのですが、そういう意味で、編集委員会で、まずどのように具体的にしていくかというのを決め、さらに各執筆者、あるいは協力者などのご意見を集約した上で、今後というか次回の編さん委員会にそれを出した上で、それを集約していくということは考えているのですが、多分、そういうところでも、今のようなさまざまな提案は出てくるかと思しますので、その意味では、今のさまざまな提案は、それを先どりするような意味で、いろいろ、今後このようにしたいというような1つの提案を聞いておくことは必要なのではないかと考えております。

林 委 員

事務局がかなり大変になるのかなと思うのですが、やはり、私が申し上げたような、各部会の意見を聞く、それをまとめるというような作業を次回までにやっていただいて、1つのデータのようなものにしてお示しいただけたらありがたいと思うのですが。

根岸委員長

そこら辺、事務局、とりあえず編集委員会との兼ね合いもありますが、よろしいでしょうか。

大 熊 委 員

林委員のおっしゃるとおりです。ですが、私はこれにかかわっていないので、第1号の読者だと思のですが、第1号の読者が何を思ったかというのは、これはこのままにしておいたらもったいない。せっかくできた刊行物を広めるためにはどうしたるよいか、新庁舎に小金井市の歴史年表を掲示したら等、夢物語ですが、そういうことを僕に考えさせてくれた資料だったのだと、そのようにご理解いただくと幸いです。今、林委員の言われるように、着実に歩を進めていただくことが大事なことで私も思いますので、どうかよろしく願いいたします。

林 委 員

先ほど大熊先生がおっしゃったように、私もこれを読み始めて、下手な文学作品や小説よりずっとおもしろいということは、よく実感できました。

ですから、市民の方々も、これを読み込むことによって、市史に対するなじみができるみたいな、そのような方向で、これからは、前に私は、今までハードの面に力が注がれてきたけれど、ソフトの面にこ

れから力を注いでいくべきではないかと申し上げましたが、そういう意味では、読んでみるとほんとうにのめり込むようなおもしろさです。私たちは関係者だからそうなるのかもしれませんが、一般市民の方が読んでみてもおもしろい読み物ですよということが浸透できるようなそういう活動がこれからは必要じゃないかと思えます。

根岸委員長

ほかにいかがでしょうか。今、次回の課題も出ましたので、次回以降も考えながら、来年度、総括をきちんとしていくという方向性で、今後この委員会を続けていくという形でよろしいでしょうか。ほかにご意見はよろしいですか。

(2) その他

根岸委員長

それでは、(2)その他、お願いします。

高木主事(学芸員)

では私から1点。今のお話の中で、PR、広報を進めたほうが良いというのは、まさにそのとおりだと思っております。

その一環として、早速、前回の会議でも少しご説明いたしました。小金井市史の刊行を記念して、記念の講演会を、現在計画を練っているところです。

まだ日程の詳細は決まっておられません。ただ、基本的なところだと、恐らく2時間ほどの講演の中で、各時代の概要やあらまし、例えば苦労話、そういうところをざっくばらんに、それぞれの編集委員の方々にご講演いただくということは、一つ考えていいのかなと。また、このほかに、トークセッション形式も想定しておりますが、具体的な部分は、やはり今後皆様と検討してまいりたいと存じます。その際に、展示パネルなども、もし可能であればわかりやすい形で掲示するのも、一つ手かなとは思っております。

またこれは、内容等に関しましては、今後また皆様と相談させていただきます。以上です。

根岸委員長

記念講演会の件、前回も出ておりましたが、そのような形で今後検討したいということですが、いかがでしょうか。

委員

(承認)

根岸委員長

ありがとうございます。その他について、何か先生方、あるいはほかの方から。事務局のほうはいかがですか。

関生涯学習課長

特にございません。

根岸委員長

議題では、ほんとうに今後の課題がここで終わりではなく、さらに大変になってしまいましたが、そのような形で発展を続けるような小金井市史にしていきたいと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

3 次回の会議日程

根岸委員長

では3として、次回の会議日程。既に前に言われていましたよね。前回、5月13日ということで、一応予定が入っておりましたが、これでよろしいでしょうか。

委員 はい

根岸委員長 5月13日が第1回で、2回目は次の任期の体制に切り変わるということですね。基本的にはそこで切りかわるということですね。

関生涯学習課長 はい。資料としてお配りしましたが、今年の8月12日までというのが皆様の任期でございます、会としては、現体制で第1回目。ただ、市史編さん委員会としましては年3回を予定してございますので、その後はまた、委員構成変更の後に開催させていただくような形になるかと思えます。

根岸委員長 わかりました。

それでは、ほかに何かございますか。

よろしければ、編さん委員会はこれで終わりにいたします。どうぞご協力ありがとうございました。